

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 彦根市立城西小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒522-0064
滋賀県彦根市本町三丁目3番22号

E-mail jyosei@mx.hikone.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 217名 女子 199名 合計 416名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「世界に目を向け 未来にたくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標とし日々教育実践を展開しており、ESD教育推進に向けては、「歴史・文化遺産」「環境保全」「国際理解」の3点に重点を置いた取組を進めている。また、「地域教材の開発」「思考力の育成」「実践力の育成」「ESDの視点に基づく評価」を重点項目として、地域に根ざした取組をはじめ、自ら課題解決に向けてねばり強く主体的に取り組む実践を進めてきた。

① 「歴史・文化遺産」に係わる学習

学 年	活動内容
1年生	季節のあそびの発展として、昔のあそび体験をし、昔から伝わる遊びのおもしろさが実感できる取組を行った。
2年生	「町たんけん」を通して、彦根城を中心とした校区の特徴やよさを感じ取る取組を行った。
3年生	校区を知る活動を通して、昔の町並みを再生する取組が行われたキャッスルロード商店街について関心をもち、店調べやインタビューを、自分たちにもできることについて考えた。

4年生	彦根城について自分たちの視点で調べたり見学したりした。調べた城の特徴や工夫について、一般の観光客に分かりやすく説明するためにポスターなどにまとめ、彦根城のガイドをした。
5年生	武具制作に由来する仏壇産業のなかの金箔押しなど、彦根で受けつがれている伝統的なものについて体験を通して調べ、伝統工芸のよさを感じるとともに、地域の歴史の深さを実感した。
6年生	井伊直弼公にまつわる、湖東焼き体験、茶道体験、華道体験、狂言発表などの体験活動を行った。また、社会科とも合わせて「開国」の決断を下した直弼公について話し合う活動を行い、井伊直弼公の生き方について考え、伝統文化を受けついでいく大切さを学ぶとともに、学びを発信した。

② 「環境保全」に係わる学習

学 年	活動内容
1年生	学校や地域の公園での遊びや自然物を使った遊びを通して、季節感を味わう取組を行った。
2年生	生き物となかよしになる活動や季節をかえての町探検を実施し、季節による身の回りの生き物や町の様子の違いを感じた。
3年生	校区探検から、地域にある公園の木々や芹川の自然の変化に関心をもった。 理科では、季節ごとに校内の木々や生き物の生長や変化を観察した。
4年生	彦根城調べでは、歴史的な観点だけでなく、オオトックリイチゴや彦根山の木々など、彦根城周辺の自然にも目を向けるようにした。 荒神山合宿の自然体験学習では、木々を使った製作、自然のなかでのウォークラリー等の取組を行った。
5年生	フローティングスクールの取組や彦根城の城山を中心に、地域の環境学習に取り組んだ。ふるさと魅力発信プロジェクトとして、城山の植生について、観光客や地域の人々に発信した。
6年生	空気・水・栄養などの面から、地球上の生物とヒトとのつながりを考え、環境保全に向けての意識を高め、自分にできることを提言としてまとめた。

③ 「国際理解」に係わる学習

・オーストラリアのローズパークプライマリースクールとの交流は、今年で3年目になる。今年も、本校の児童23名がオーストラリアを訪問し、相手校の児童の家でホームステイを行った。学校での歓迎式や現地での学習に参加するなど貴重な体験を行った。

出発前には、学校や彦根のよさを伝えるメッセージを全校児童で作成し、相手校へのプレゼントとしたり、帰国後は、全校集会でオーストラリアの学校や文化についての報告会を行ったりするなど、全校的交流に努めた。



①の写真



②の写真



③の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（自由記述 オーストラリアを訪問する児童は、土曜日の午前中に集まり、簡単な英会話の勉強をしたり、オーストラリアの文化に触れる学習を行った。）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、持続可能な社会づくりの担い手になる子どもたちに必要な力を、「学びへの意欲」「思考力・判断力・表現力」「実践力」としている。この力を育成するために、学年ごとにESDカレンダーを作成し、教科横断的な視点をもとに学習過程を計画したり、行事と特別活動等と関連させたりしながら取組を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎年、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、子どもの様子や地域の実態に合わせた取組を進めるようにしている。前年度担当した者との話し合いの機会をできるだけ多くもつようにしたり、フリーの者が学習計画に参加し協同的に取り組んだりするなど、組織的な対応をとっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

総合的な学習の時間は、「関心・意欲・態度」「追究する力」「思考する力」「表現する力」「協力する力」「自己の生き方」の6観点を大切にしながら評価している。計画的にESDの取組を推進したことで、子どもたちは主体的・積極的に学習に取り組めるようになってきている。今後は、主観的な評価にならないよう、めざす姿を明確にするなど評価規準を明確にしたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

主として学校ホームページを通じて発信している。また、報道機関にも紹介することで、本校での取組を積極的に地域の人に理解してもらうようにしている。地域の学校教育への関心は高く、こうした発信に対して保護者の反応は敏感であり、本校の取組を理解してもらえる機会になっている。校内においても、できるかぎり全校的に発表できる機会をもつようにしている。こうした取組は、子どもたちの学習に対する次への活力となるとともに、自信につながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

1月に奈良教育大学で実施された、近畿ESDコンソーシアムにおいて、本校の取組の成果を発表する予定をしていた。当日の発表に向けて、彦根城に係わる学習やオーストラリアのローズパークプライマリースクールとの交流等について発信する予定であったが、積雪のため急遽参加できなくなった。

近隣の近江高等学校においても、本校のESDに関する取組を発表した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールとの交流はできなかったが、オーストラリアのローズパークプライマリースクールや熊本の同名校である城西小学校等、学校同士のかかわりを広げられるよう、ネットワーク作りに努めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

本校は、校区に国宝彦根城をはじめとした歴史的・文化的施設が散在している。こうした歴史的な地域である利点を生かし、総合的な学習の時間を中心として、学年ごとに彦根城を中心とした教育課程を組み、計画的発展的に学習を展開している。

新学習指導要領においても、地域に誇りをもち地域のために活躍できる人材を育成するということが重要視されており、こうした意味で、有意義な実践が展開できている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

基本的には、今年度の取組を継承し、さらに充実したものに進めていく方向である。中でも、新学習指導要領では「外国語」「外国語活動」が導入されることもあり、国際理解に係わる教育をさらに推進したいと考えている。具体的には、日常の学習の充実はもちろん、来年度は、オーストラリアのローズパークプライマリースクールの生徒が、本校へ来校することが決まっているため、この機会を生かし、さらなる国際理解教育の発展に努めたいと考えている。